飢餓対策 NEWS　第 279 号　発行日 2013 年 9 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

飢餓のない世界を実現するための第一歩
ハンガーゼロ・サポーターになろう！

現在… 3033口

2014 年 ONE WORLD カレンダー

受付開始クリスマスプレゼントに、

2014 年版の国際協力カレンダー「地球家族」お申し込み受付を開始しています。2014 年版のテーマは「この世は舞台」。

壁掛型　縦 25.7㎝×横 36.4㎝ 1 部 1,000 円

梱包送料が部数毎で別途必要となります。

10 部以上の申込みには割引があります。

※但し送付先は 1 ヵ所に限ります。

詳しくは、㈱キングダムビジネスまで。

大阪市中央区内本町 1-4-12 NPO ビル 6 階

TEL：06（6755）4877

FAX：06（6755）4888

ウエブサイトからも申し込みできます。

https://www.kbwin-win.org

世界里親会
里子にクリスマスカードを送ろう

クリスマスまでに各地域へ届けるために、11月 9日㈯までに大阪事務所に到着するようにご協力ください。それ以降の分もお預かりしますが、里子に届くのが遅れる場合がありますので予めご了承ください。

※「大阪事務所でカード受領」のお知らせが必要な場合は、その旨お書き添えください。

タンザニアにチノパンツ 4 千着

去る 5 月にソフトバンクモバイル㈱が寄贈してくださったチノパンツ 4000 着が、7 月 3 日タンザニアのザンジバルに届きました。早速学校や教会、地域の住民などに配られ、感謝の報告の写真が来ました。ありがとうございました！

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。

お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- ☐ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- ☐ JIFH（日本国際飢餓対策機構）サポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 500 円）
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

氏名（フリガナ）：　　男・女

〒

住所（フリガナ）：

（電話）

▼申込日：　　年　月　日▼ NL　号

JIFH 東北事務所「開所式」

FAX・072-920-2155

東北から世界の善き隣り人としてさらに前進！

当機構は 9 月 2 日、エマオセンターで「東北事務所開所式」を行いました。当日は東日本大震災被災者支援活動に携わってきた東北地区のキリスト教会や様々な支援団体から多数ご来会くださり、「東北事務所」の新たな門出に温かい激励をいただきました。心より御礼申し上げます。

当機構岩橋竜介理事長は「私たちはこの東北でさらに皆さまにお仕えしていきたいと願っています。大きな苦しみと痛みを経験された東北の皆さんは、世界で飢餓に苦しむ人々を理解し、善き隣り人となることができると思います。そのお手伝いをさせていただくために東北事務所を開設させていただきました」と挨拶しました。東北と世界の人々の必要のため引き続きご支援をお願いいたします。

●東日本大震災被災者支援と募金を継続しています！

■発行者　岩橋竜介

■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構

いいね大募集

Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/

eメールアドレス　general@jifh.org

フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero

■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで

●郵便振替　00170-9-68590／日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ募金ができます！

大阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1　TEL（072）920-2225　FAX（072）920-2155

東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517号室　TEL（03）3518-0781　FAX（03）3518-0782

東北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階 E　TEL（022）217-4611　FAX（022）217-6651

愛知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F　TEL（052）731-8111　FAX（052）731-8114

広島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F　TEL（082）546-9036　FAX（082）546-9037

沖縄　〒901-0156 那覇市田原3-8-1 ユリ香ハウス 201号　TEL（098）859-4585　FAX（098）859-4540

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

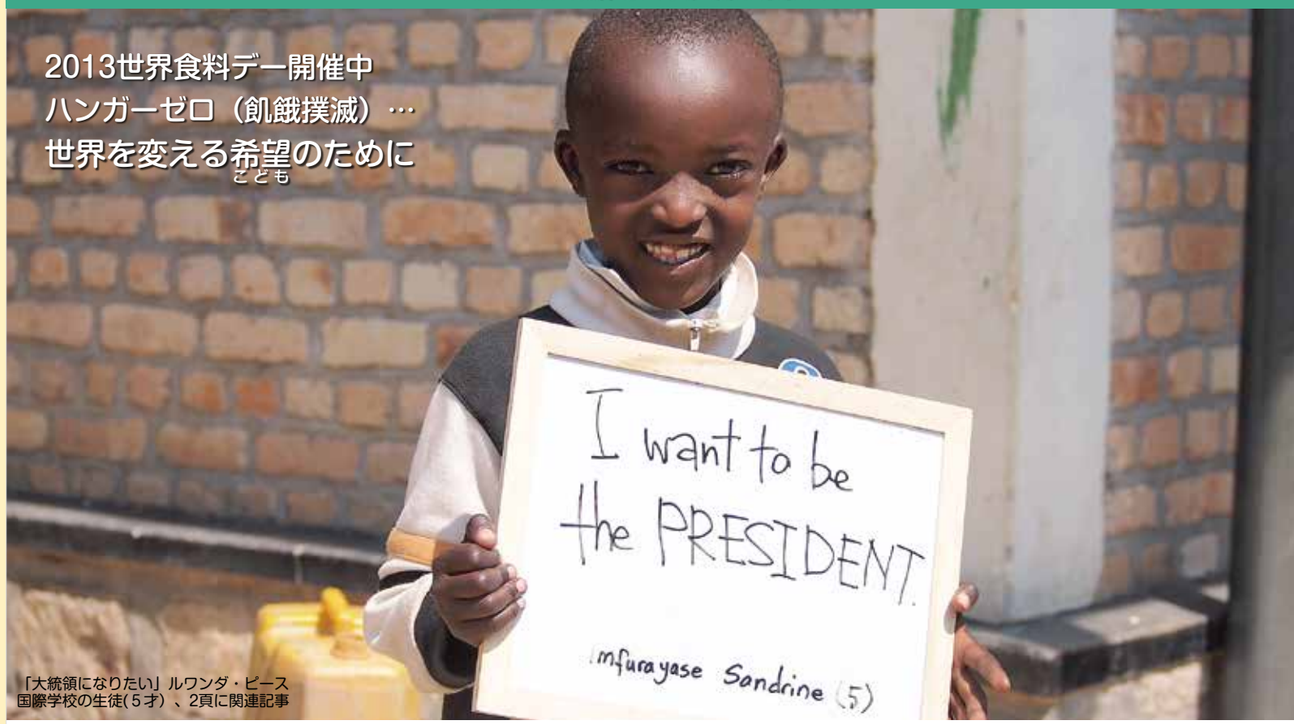
1 分間に17 人（内12 人が子ども）
1 日に2 万5,000 人
1 年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

2013 10 No.279

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



「大統領になりたい」ルワンダ・ピース国際学校の生徒（5 才）、2頁に関連記事

山積する課題はやがて希望に変わる

日本国際飢餓対策機構　啓発総主事　田村治郎

ルワンダでのキャンププログラムの冒頭、REACH代表者のカリサ牧師が団体の設立経緯、団体の活動の概要をお話くださった中で、心に響いたメッセージは、「ことばより行動」「山積する課題はやがて希望に変わる」でした。今夏のワークキャンプは、カンボジア、ボリビア、ルワンダで開催されましたが、私はルワンダのスタディ・ワークキャンプの引率者として、7度目の訪問を許されました。

1994年に80万人とも100万人とも言われる人々の虐殺を経験したルワンダは、被害者側、加害者側の人々が赦しと和解、相互の関係修復の道を歩み出しています。人々の心と体に刻まれた深い傷が癒されてゆくこと、それは険しく困難な道のりでありながらも、確実に一歩一歩前進していることを、長年協力関係を築いて来たREACHの忠実な働きを通して今回の訪問でも見させていただきました。

活動の一つ、加害者と被害者の関係を修復してゆくユニティグループにお邪魔しました。一つは、婦人方の石鹸作りグループです。楽しそうに石鹸作りをされている皆さんの姿を見るなかで、相互の間にすでに赦しと和解が生まれ、共に生きる家族となっていると思わされました。もう一つは、クワイヤーグループです。ほとんどのメンバーは虐殺後に生まれた若者で、直接の痛みを経験していない者たちです。だからこそ、悲劇を繰り返す負の連鎖を断ち切ることも悲劇を繰り返すこともできる鍵を握る存在であると感じています。そんな彼らが自作の歌を披露してくれました。

「私たちは唯一の神によってひとつ。同じルワンダ人で同じ血が流れているのにお互いに殺し合うなんておかしいよ。共に集まり憎しみに立ち向かおう。なぜなら私たちは皆兄弟姉妹なのだから」高らかに歌い上げる彼らの顔には、相互の違いを拒絶するのでなく、受け入れ合い尊敬し合う、負の連鎖を断ち切る神の家族の絆が溢れていました。

平和への取り組みに地道に活動するREACHの姿に、「憎しみと絶望の国ルワンダ」から「希望と未来に満ちた国ルワンダ」に変わりつつあるひとすじの光を見させていただきました。赦しと和解、相互の関係修復は必ず実現する、これが今回のキャンプでの確信です。

『キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄されたかたです……また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって、葬り去られました。』（聖書）

平和をつくっていく子どもたち

ルワンダ・ピース国際学校

「平和をつくる者は幸いである」と聖書が語るこの言葉が、今年夏のルワンダでのスタディー・ワークキャンプのテーマになりました。日本から参加した16名は、ルワンダにおける平和構築や自立開発活動にボランティアとして関わることを通して、ルワンダの歴史と現実から学び、そして自分たちが平和構築にどう貢献できるか、その鍵となるなにかをルワンダで見つけ出すことを期待して日本を発ちました。

私自身はその鍵をひとつ、滞在の最後に訪ねたピース・インターナショナル・スクールの子どもたちの姿に見つけました。

学校の運営が始まって11年、現在はルワンダの東南部ニャンザにあるこのスクールに約300名の子どもが通っています。

JIFHが１年半前から世界里親会を中心に教育支援をさせていただいている学校ですが、私にとっては初めての訪問でした。そこで全学生が支援を受けて勉強しているのだと思っていたら中には裕福な家庭に生まれ、親が学費を払っている子どももいるそうです。

学校の最も重要な目標

創設者デニス・ムガボ師に伺うと、優れた教育を提供することを通して貧しい子どもと裕福な子どもが共に通える学校を目指し、異なった育ちや生活環境を持つ子どもが学校生活の中でひとつになることによって、大きくなってルワンダを始め世界中で平和を築き上げていく「ピースメーカー」を育てることが学校の最も重要な目標だとのことでした。

もちろんこの目標を達成するのは簡単なことではありません。学校の運営が始まってすぐの頃には、一時期学校に通っていたけれど貧しい子どもと同じ学校に通って欲しくないと生徒が親に転校させられたケースや、学校が提供するシンプルな給食に対する苦情もありました。しかし雑穀とパンを水で溶いてマグカップで出される

この給食は、ある子どもにとって一日でたった一度の食事なのです。

現在のピース・インターナショナル・スクールを目にして分かったのは、学生たちがしっかりと創設者や先生方の精神を受け継いでいることでした。授業中、各教室から聞こえてくるのは、元気な歌声と一生懸命勉強に向き合う沈黙の繰り返しで、休憩時間になると一気に校庭中に子どもたちの笑い声が満ち溢れます。

真の平和をつくる者に

国と国、民族と民族、人と人の間に平和をつくるということは、自分自身の生活と心にある壁をなくして初めてできることです。こうしてひとつになって勉強にも遊びにも夢中になるピース・インターナショナル・スクールの子どもの姿に見えた、豊かさと多様性の中にある一致に、私は深い感銘を受けました。ここで学んだ子どもたちが真の平和をつくる者になることを心から願わずにはおられません。

広島のNGO「千羽鶴未来プロジェクト」から託されたノートを贈呈

９月23日にJIFHより河合朝子スタッフがルワンダに派遣されました。平和ぼけしがちな私たちに、こうして貴重な学びをさせてくれるルワンダとのつながりが更に深まることは何より感謝です。

（JIFHスタッフ：エマ・トレール）

● 2013 年世界食料デー「あなたの一食分募金」にご協力ください。ウエブサイトに食料デー情報を掲載しています

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

フィリピンの山奥で「わたしから始める」

グループ貯金を活用して建てられた支援センター

フィリピン　ミンドロ島　ナウハン県　サンアンドレアス村で2008年にハンズ・オブ・ラブ・フィリピンのファシリテーションにより、子どもと地域開発プログラムが始められました。その活動の一つとしてマンヤンの子どもたちがハイスクール（日本の中学校）に行けるよう支援しています。また原住民マンヤンの識字教室を行い、13名の識字のできる婦人のグループができてビーズクラフトを製作、販売を始めました。

今年の６月からこの「アグパイサリガン」（いっしょに、の意）という現地の婦人たちのグループは、コミュニティの中の聡明な子１人（ロメル・レイド君）が学校を続けられるようにグループ貯金から支援を始めました。自分たちの生活もまだまだ厳しい中、他の人の支援を始めたのです。

地域発展に仕える卒業生

グループのファシリテーターとして働いてくれたのは、父親がマンヤンという、ティナ・カスティロさんです。彼女自身、支援や奨学金を受けてハイスクール、大学で学び、ソーシャルワーカーとなりました。彼女が通い、ロメル君が学んでいる学校はマンヤンのために創立されたハイスクールで、コミュニティに仕えることを教え、卒業生はマンヤンのコミュニティのために働いています。

●ロメル君の感謝

「僕の夢を達成するために学校で勉強できるよう支援して下さっている『アグパイサリガン』の人たちに感謝しています。僕の夢は先生になって自分が学んだことを次世代の人たちに伝えることです。学校では作付けの仕方や有機堆肥の作り方、また自分の体の管理、隣人を愛することを学んでいます。」

●婦人グループ「アグパイサリガン」のビジョン

私たちは小さなグループですが人を助けることができて嬉しいです。こんなことができるなんて夢にも思いませんでした。ロメルが一生懸命勉強して良い成績をとり、そしてハイスクールを卒業して私たちの良い見本になって欲しいです。私たちはグループの活動を続け、ロメルだけでなく少なくとも３人、いいえもっとたくさんの子どもたちを支援したいと思います。

●ファシリテーター ティナさんのビジョン

「コミュニティ開発、人財開発の中では、どんなにプロジェクトがゆっくりと進んでも、決して時間の無駄ということはありません。グループにはいろんなことが起こりますがそのことを通して一人一人がお互いから学び合い、自分の持てる力や考えを分かち合います。一人一人がグループにとってかけがえのない存在で、お互いの成長に貢献しているのです。私はこのグループが活動を継続し、与えられた恵みをそれぞれのメンバーに、子どもたちに、家族にもたらして欲しいと願っています。私のビジョンは、神様を信頼し正しい選択をして最善をつくす時すべてのことが可能になることを彼女たちが信じて、人々に影響を与える者となってくれることです。」

地域の婦人たちが集まり、自分たちのできるビーズクラフトから始め、自分たちのコミュニティの子どもの教育支援をして、世界を変える希望を自らの手で生み出し始めました。

「わたしからはじめる、世界が変わる」はフィリピンミンドロ島の山奥でも始まっています。

（報告：JIFHスタッフ酒井慶子）

●「わたしから始める、世界が変わる」ハンガーゼロ・サポーターは1口　1,000 円（月）から。あなたも始めて下さい。

ウェバレ!! 支援感謝します

世界里親会 ウガンダ活動報告

ウガンダ共和国ムコノ郡3地域において2002年から始められた里親会としての支援は、2013年8月に終え、地域の人々に移譲されることになりました。地域のリーダーが育ち、人々はリーダーを中心に自立の時を迎えることができたのです。その記念の式典がこのほど行われました。地域の人々のために子どもの里親となって協力してくださった皆様、里親会全体を支えてくださった賛助会員の皆様、本当にありがとうございました。

式典に参加された支援者の皆さま

8月26日にナマスンビ地区、27日にミソンバ地区、28日にキョガ地区で開催されました。式典には、地元政府関係者・学校関係者・教会関係者・保護者・里親会ボランティアスタッフ・里子たちがたくさん集いました。それぞれの立場からすべての協働者へ感謝が述べられ、その中でウェバレ！（ルガンダ語で「ありがとう」）という言葉が、何度も何度も叫ばれました。鳴り止まない拍手、熱狂的なダンス、人々が心から喜んでおられる姿を目近に見ることができました。

ムコノ3地区の担当者サラさん

地区の担当者サラさんは、これらの地域での活動を振り返って、「教育・健康・経済（家計）・信仰を軸に活動を続けてきました。子どもたちと保護者、また教会は力を得て自信に満ちた姿に変わりました」と力強く語っておられました。

この式典には日本とインドから9人もの支援者が参加してくださいました。里親として長年にわたり子どもに寄り添い支えてくださった方や、JIFHのワークキャンプ参加者として地域のために汗を流してくださった方。それぞれの想いを抱きながらの3日間であったと思います。

一人を支援することの意味

里親をしてくださっている教会の代表として参加された水野さんは、「一人の子どもを支援するだけで地域が変わるとは正直いって信じられない気持ちがありました。しかしここに来てみて、一人の里子をサポートすることで地域が、さらにウガンダの国が変わるというビジョンを、ウガンダの里親会が抱いて働いておられることがよくわかりました。日本に帰ったら、たった一人の支援といえどもウガンダに大きな影響を与えることができることを強調して伝えていきたいと思います。これまでは里子との関わりをあまり意識しなかったけれど、もっと関わっていきたいという思いを持ちました」とおっしゃっていました。

かつてこの地区でのワークキャンプに参加された方を紹介ました

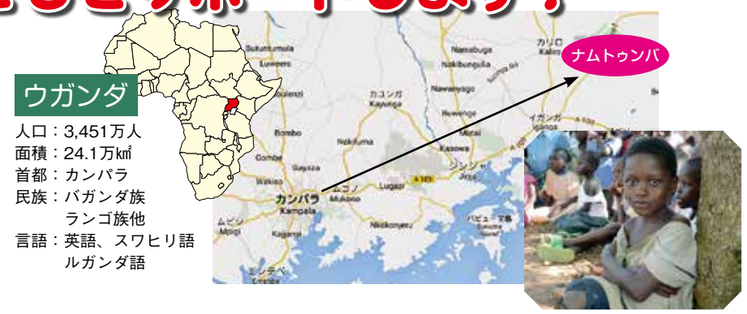
一人でひとりを、夫婦や家族でひとりを、数人～数十人のグループでひとりを。さまざまな形での支援が集まって、里子の暮らす地域に変革をもたらしました。世界の飢餓という大きくて難しい問題だからこそ、支える人も手を取り合って誰かと一緒に「わたしから始める」ことが、隣人に愛を分かち共に生きることの実現につながってゆくのだと思わされました。

ナムトゥンバの子どもたちの全人的成長をめざします

チャイルドサポーター募集します

新たな支援地ナムトゥンバで 300人の子どもをサポートします！

世界里親会では、2013年10月より新しくウガンダのナムトゥンバ郡で自立支援活動を始めます。首都カンパラから東へ約150㎞。車で4時間のところです。活動が始まるのは隣接するマガダ地区とイジランゴビ地区です。



ウガンダ
人口：3,451万人
面積：24.1万㎢
首都：カンパラ
民族：バガンダ族
ランゴ族他
言語：英語、スワヒリ語
ルガンダ語

貧困のために教育は後回し

両地域は、ウガンダの世帯調査によると貧困率が49%という高さです。（ウガンダの国平均は33%）住民のほとんどが農業に従事していますが、生産量・収入ともに不十分で、慢性的な栄養失調を引き起こしています。

生活用水は3㎞も離れた井戸を利用しています。トイレはないことが多く、外の茂みで用を足すためコレラ・赤痢・下痢・寄生虫の発生率が非常に高くなっています。また特に子ども・妊婦にマラリア感染が多くみられ、エイズ問題も深刻です。保健センターが約30ヵ所存在するにも関わらず、医師は1名で、治療設備も全く不足しています。

教育面では、生活が困窮しているために子どもたちが畑仕事に駆り出され、学校は欠席が目立ちます。保護者に教育の価値や必要性の理解はなく、学校行事や生活指導などにも無関心です。この地域の子どもは、15歳の生徒が小学校5年生だったり、10歳で1年生だったり、教育が後手にまわっていることが明らかにわかります。1教室あたりの生徒数は平均95人、一つの教室に全員が入ることは難しく、木の下で授業を行っています。6人で一つの机、10人で1冊の教科書を使うほど教育設備が不足しています。

地域社会とともに歩む

FHウガンダは1年前から、この地域の学校・教会・政府・保護者に里親会の活動を通じた地域変革を提案し、協議を重ねてきました。そして今秋から子どもたちへの教育を基本に、十分に食べられるようになること（家計改善）、衛生・健康指導、洪水などの災害時の対策と共に、それぞれが神様に与えられている賜物に気づくことを柱とし、協力してこの地域の自立支援をしていくことに合意しました。

豊かな自然の中で子どもたちが学校に通い、家庭の経済的な必要が満たされて地域社会が希望あるものへと変わっていくには、このウガンダの子どもたちを支え励ましてくださるチャイルドサポーターが必要です。300名の子どもたちのご支援をよろしくお願い致します。

この地区での人々の生活環境は厳しい

（報告：世界里親会・山田香菜）

●ウガンダの子どもたちのチャイルド・サポーターを募集しています。里子一人につき毎月 4,000 円。ウエブサイトからお申し込みの場合は、クレジットカードがご利用になれます。資料請求は 8 頁から。大阪事務所　世界里親会 Tel.072(920)2225

紛争に苦しむ人々 ②

難民キャンプって？

南君　中学生になりました

え／みなみななみ

コンゴ民主共和国の国内避難民

難民って？

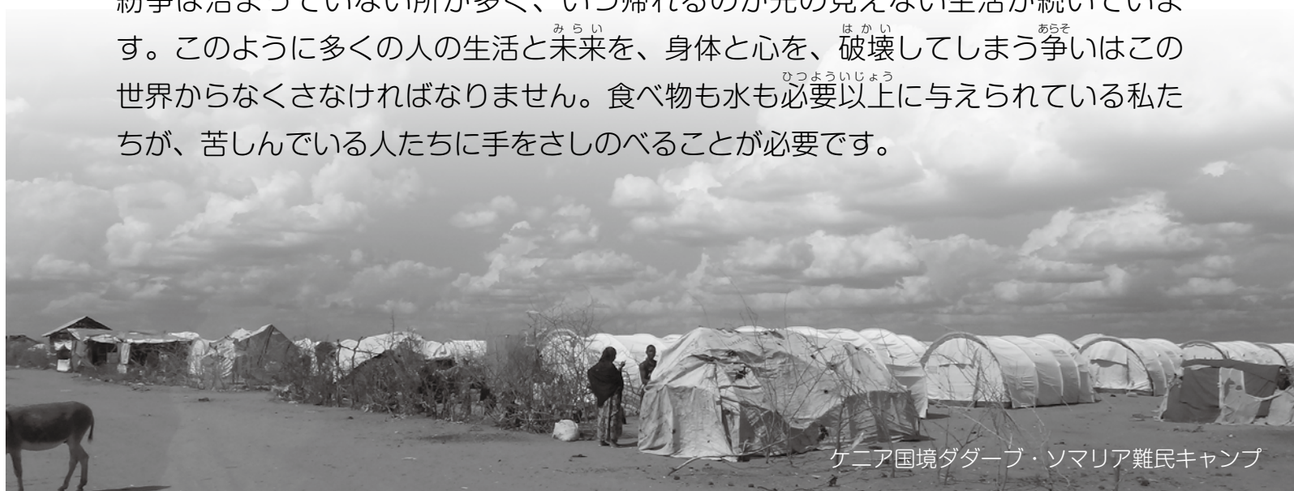
紛争に巻き込まれたり、宗教や人種、政治的意見など様々な理由で迫害を受けたりして生命の安全を脅かされ、他の国に逃れなければならなかった人々のことを「難民」といいます。また、国境を越えないで自国内で避難をしている人々は「国内避難民」と呼ばれます。

世界中でこのように故郷を追われて難民となり、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の援助対象になった人々は、2012年で4,520万人にのぼりました。また2012年だけで新たに、110万人が難民となり、650万人が国内避難民となりました。これは、4.1秒ごとに1人ずつ、新たな難民・国内避難民が、増えていることになります。

大人だけではなく、子どもたちも難民キャンプにたどり着くまでに様々なつらい出来事や恐怖を経験し、その心に深い傷を負っています。逃げる途中で家族が亡くなったり、離れ離れになってしまったりすることもあります。中には武装集団や反乱軍に兵士として使われ、人を殺害、または麻薬中毒になった経験を持っている子どももいて、子どもたちの心に刻まれた深い傷ははかり知れません。

難民キャンプは、人々の命を守り保護する目的で設けられていますが、食料や水も十分ではなく、子どもたちも家族のために水汲みや食料などの配給の列に並ばなければなりません。子どもらしく学び、遊ぶことなどできないのです。そのような子どもたちのために、キャンプ内にささやかながら学校が設けられるところもあります。

避難している人々が故郷に帰るには平和が戻らなければなりませんが、各地の紛争は治まっていない所が多く、いつ帰れるのか先の見えない生活が続いています。このように多くの人の生活と未来を、身体と心を、破壊してしまう争いはこの世界からなくさなければなりません。食べ物も水も必要以上に与えられている私たちが、苦しんでいる人たちに手をさしのべることが必要です。


ケニア国境ダダーブ・ソマリア難民キャンプ